

. 緒 言

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合 研究事業

総括研究報告書

HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談体制整備
とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究

緒言

研究代表者 内丸 薫 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

2010年に「HTLV-1総合対策」が策定され、2011年度から本格的に施行されてから6年になる。全体を把握・評価する「総括班」はその実施体制の1つに規定されている。厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業（H23-がん臨床-一般021）「ATL克服に向けた研究の現状調査と進捗状況把握に基づく効率的な研究体制の構築に関する研究」（渡邊班）は2011年度から3年間、HTLV-1とそれによって発症するATLについて、感染予防、発症予防、新規治療法開発、の観点から研究推進の現状と問題点を把握して評価し、「医療行政」と「関連疾患研究」の適正な推進に向けた提言を行って来た。一方、厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業（H23-がん臨床-一般020）「HTLV-1キャリア・ATL患者に対する相談機能の強化と正しい知識の普及の促進」（内丸班）では、HTLV-1キャリア・ATL患者相談支援体制の実態を調査し、保健所・がん拠点病院相談支援センター等、HTLV-1キャリア・ATL患者相談支援体制における課題を明らかにするとともに、キャリア自体の調査を行うことにより実態を明らかにすることの必要性を明らかにしてきた。また、がん臨床研究事業（H23-がん臨床-一般022）「ATL」の診療実態・指針の分析による診療体制の整備」（塚崎班）では第11次ATL全国実態調査を行うとともに、ATL診療ガイドラインを作成するなどの研究を進めてきた。

平成25年度で終了した3研究班の研究を発展的に継続するため、平成26年度からこれら3つの研究班はお互いに連携しながら研究を進めていくため一つの研究班に統合することとなった。これら3つがそれぞれグループとして、一部班員を重複しながら緩やかに結合しつつ、これまでの研究の流れを踏まえて事実上独立した研究班として研究を遂行している。そのため本年度も本総括研究報告書でも3グループがそれぞれ総括研究報告書を作成し、それを統合して研究班としての総括研究報告書とすることとした。本年度は最終年度であり、各グループの成果が取りまとめられるとともに今後への展望が提示される。